日出町歴史資料館・日出町帆足萬里記念館
令和４年 第３回 特集展

泰平の世と殿様と
ー木下俊懋日記から見えてくるものー

2022 11/8(火)– 2023 3/5(日)

主催 日出町歴史資料館・帆足萬里記念館
日出町教育委員会社会教育課

Ⅰ 藩主木下俊懋の生涯

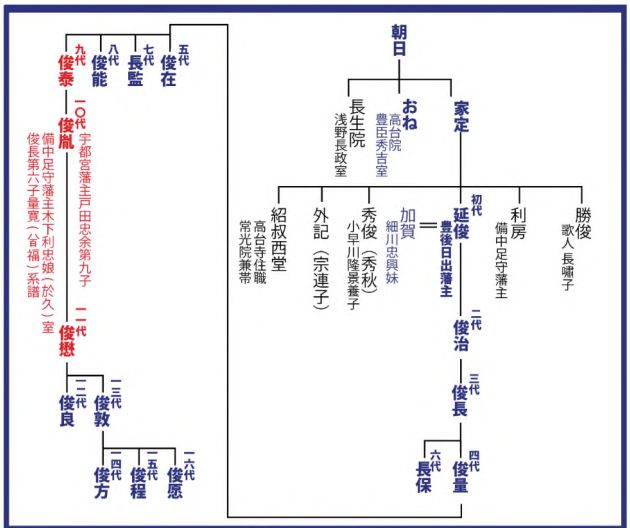
藩主俊懋の生涯と 藩主日記の魅力

日出藩第 11 代藩主木下俊懋（としまさ）は、安永元 (1772) 年 8 月 2 日に木下俊胤 (日出藩第 10 代藩主) とその正室於久の長男として誕生しました。

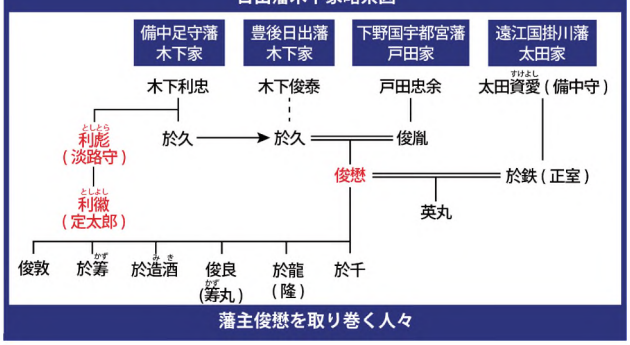
俊懋が生涯を送った 18 世紀後半から 19 世紀前半の時期は江戸幕府第 11 代将軍徳川家斉の治世のもと、泰平の時代を迎えていました。特に、俊懋日記が遺された寛政年間 (1789 ～ 1801) は将軍家斉を補佐した老中の松平定信らによる寛政の改革が行われたことにより、幕府の政治は安定期を迎えていました。

このような中、俊懋の時代が始まります。父俊胤は下野国宇都宮藩（現在の栃木県宇都宮市）の戸田家より養子に入って「名君」と高く評価されましたが、安永 5 (1776) 年 5 月 20 日に 34 歳の若さでこの世を去りました。そのため、俊懋が急遽弱冠 5 歳にして藩主となったのです。その後 10 年あまり、専ら江戸にて暮らし、ようやく天明 8（1788）年になって初のお国入りを果たすのです。俊懋 17 歳のことです。

そして、天明 8 年 4 月 28 日、この初のお国入りを前にして、俊懋日記ははじまっています。この日記には日々の生活で起こった出来事や他藩の大名や藩士たちとの交流、江戸や日出での祭礼の様子など様々な事柄が書き残されました。これらの記事は、江戸時代後期の日出の有様をうかがい知る日出町にとって貴重な資料であるばかりでなく、俊懋が生きた江戸時代後期の社会の様子を垣間見ることができる日本史上でも重要な資料であると言えます。



日出藩木下家略系図

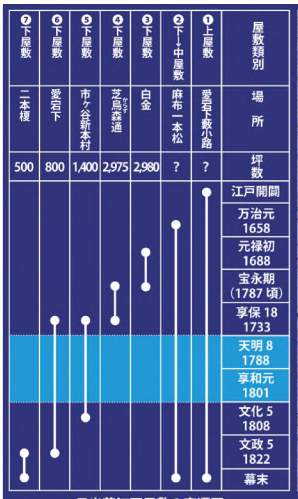


藩主俊懋を取り巻く人々

木下俊懋の生涯

西暦	和暦	年齢	主な出来事（青字 日本史関連記事 赤字 大分県・日出町関連記事）
1772	安永元	1	2月 江戸大火(目黒行人坂火事) 8月2日 江戸にて10代俊胤と正室於久の長子として生まれる
1773	安永2	2	閏3月 飛騨で新検地反対の一揆が起る(大原騒動)
1774	安永3	3	8月 前野良沢・杉田玄白らの「解体新書」刊
1775	安永4	4	4月 幕府、参勤供衆の員数を制限する
1776	安永5	5	5月20日 父俊胤の逝去により木下家を継ぐ 6月11日 諱(いみな)を「俊茂」と名乗る 7月16日 10代将軍家治より日出藩の相続を許される
1777	安永6	6	11月 平賀源内、エレキテルを完成
1781	天明元	10	9月21日 比叡山諸堂社御修復御手伝を命じられる
1782	天明2	11	5月1日 諱を「俊懋」と改める
1784	天明4	13	6月20日 将軍の命により本所竹蔵火の御番御防役を勤める
1785	天明5	14	3月15日 将軍家治に初めて拝謁する
1786	天明6	15	8月 老中田沼意次ら失脚する。9月 徳川家治没(50)
1787	天明7	16	7月 幕府、寛政改革を始める
1788	天明8	17	2月11日 俊懋、元服。江戸城へ初出仕する 3月4日 幕府より代替わりの朱印状を拝領する 3月 老中松平定信、将軍補佐となる 6月3日 日出に初入部する
1789	寛政元	18	3月 三浦梅園没(67)
1790	寛政2	19	2月19日 幕府、長谷川平蔵の建議により江戸鉄砲洲向島に人足寄場を設ける 4月3日 太田資愛(遠江国掛川藩主)の娘、於鉄を正室として結婚する 5月 幕府、湯島聖堂で朱子学以外の異学の講究を禁ずる(寛政異学の禁)
1791	寛政3	20	1月 幕府、江戸市中銭湯での混浴を禁ずる 4月23日 第1子於千が誕生するも9月20日に早世(実母は側室のフサ)
1792	寛政4	21	1～3月 雲仙岳(肥前島原藩領)が噴火、噴火後の地震で領内に大きな被害をもたらす(「木下俊懋日記」にもこの災害に関する記事あり)
1793	寛政5	22	7月 松平定信、老中を辞職する
1794	寛政6	23	閏11月14 第2子於龍(於隆)、日出にて誕生。実母は側室のタカ
1795	寛政7	24	3月 俊懋、病のため江戸への参勤の延期を幕府に届け出る 6～9月 俊懋、杵築藩医佐野玄知や中津藩医大江文明らの治療を受ける 11月22日 江戸への参勤のため、日出を出発する
1796	寛政8	25	10月 俊懋、大江文明を招いて於龍(俊懋第2子)の治療にあたらせる
1797	寛政9	26	3月9日 森藩主久留島通岡を様江亭にて饗応 11月16日 将軍家へ麻地酒を献上
1798	寛政10	27	宝暦暦を廃し、島橋至時らの寛政暦を用いる
1799	寛政11	28	1月 幕府、「寛政重修諸家譜」編纂に着手(1812完成)。 8月 司馬江漢「西洋画談」刊
1800	寛政12	29	3月 昌平坂学問所復工、諸士の入学を許す
1801	享和元	30	6月 俊懋嫡子の英丸(実母は正室於鉄)と松平信明の娘との縁組が決まる ※この年の俊懋日記には、日本各地における漂流船の詳細な記事が度々、載せられている
1802	享和2	31	2月18日 俊敦(後の13代藩主)が江戸にて誕生。母は側室の歌
1804	文化元	33	俊懋、帆足里吉(萬里)を藩学教授に任命し、その邸内に藩費にて学舎「稽古堂」を建てる
1805	文化2	34	廣瀬淡窓、日田にて咸宜園を開く
1807	文化4	36	10月14日 正室の於鉄が逝去
1808	文化5	37	8月 英軍艦フェートン号長崎港に侵入(フェートン号事件)
1809	文化6	38	6月 伊能忠敬、幕命により九州沿岸の測量に向かう
1810	文化7	39	2月9日 俊懋、測量のため日出を訪れた伊能忠敬らに木綿などを贈る 3月10日 家督を俊良に譲り、隠居。これ以後、官途を主計頭から權郎正へと改める 11月 豊後国岡藩の農民、総奉行横山善助の専売政策に反対して会所などに打ちこわす
1811	文化8	40	1月6日 伊能忠敬、日出再訪。府内から日出領津島村、鹿鳴越を経て立石に宿泊 1～3月 豊後の一揆、佐伯領・延岡領など豊後一円に波及。さらに、豊前宇佐・下毛郡にも一揆続発する。
1812	文化9	41	3月5日 12代藩主俊良、四日市代官所の要請により日出藩兵を率いて宇佐郡へ出兵する
1814	文化11	43	10月3日 脇関宝、鶴崎にて死去
1815	文化12	44	4月 杉田玄白、「蘭学事始」を著す 10月7日 俊良、江戸にて死去。弟の俊敦が日出藩第13代藩主となる
1821	文政4	50	4月18日 日出に戻り、日出城の東に別邸を設けて隠棲する
1822	文政5	51	7月3日 俊懋、日出にて逝去。松屋寺に葬られる。法名「謙徳院喬容儀哲大居士」
1834	天保5	—	俊懋(謙徳院)の13回忌法要が行われる
1846	弘化3	—	俊懋(謙徳院)の25回忌法要が行われる

木下俊懋日記の記載期間



日出藩江戸屋敷の変遷図

江戸における木下俊懋の足跡

国元における木下俊懋の足跡

『木下俊懋日記』（当館蔵）

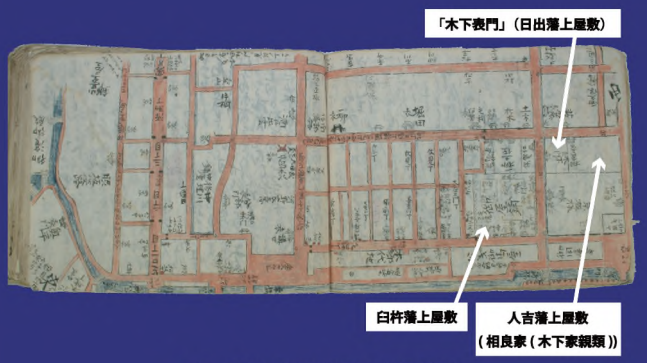
Ⅱ 藩主の江戸での日々

江戸での藩主の暮らし

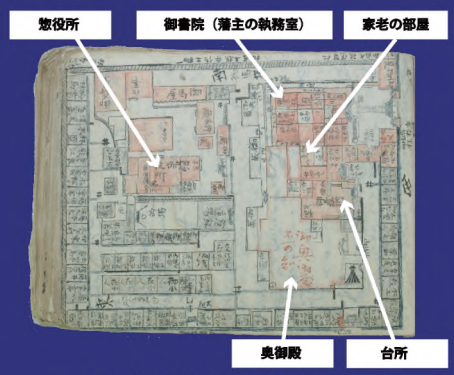
江戸は徳川幕府の政都として全国の大名たちの妻子が集められ、それに伴い多くの家臣たちも集住し、急速に発展していきます。18 世紀初頭には江戸の人口は百万人を超えたと言われており、世界有数の大人口を抱えた大都市江戸は住民たちの活気あふれる町として発展しました。俊懋も例外にもれず江戸屋敷で生まれ育ち、江戸が故郷だったのです。

各藩は江戸の市中に幕府より屋敷地を拝領していました。日出藩は愛宕下の藪小路に上屋敷を構えており、俊懋はここで生活していました。下の図は臼杵藩士の国枝外右馬が臼杵藩主の参勤の御供として、天保 13（1842）年から翌年にかけて江戸に滞在した際に書かれた日記の挿絵です。天保 13 年 4 月 23 日条として描かれた「臼杵藩上屋敷周辺の図」（図①）には臼杵藩上屋敷のななめ向かいに「木下表門」と書かれた一角があり、これが日出藩の上屋敷なのです。

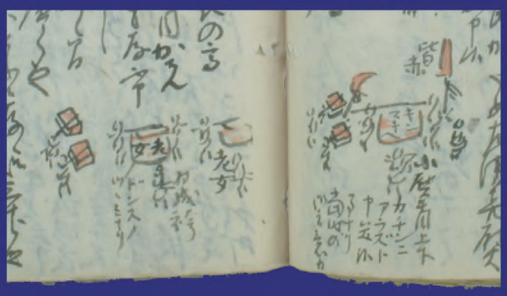
また、国枝外右馬は同日の記事の中に臼杵藩上屋敷内部の図も描いています（図②）。上屋敷の西側は玄関、御書院などがある「表」、奥御殿や台所がある「奥」からなる藩主の邸宅となっています。東側は総役所を中心にして馬屋や武芸を鍛えるための的場や「鎗剱道場（槍術や剣術の道場）」など藩士たちの施設が設けられており、上屋敷の周囲には藩士たちが住む長屋が巡っていました。



図① 「臼杵藩上屋敷周辺の図」（図の上が南）
『国枝外右馬江戸詰中日記』（臼杵市教育委員会蔵）



図② 「臼杵藩上屋敷の図」（図の上が南）
『国枝外右馬江戸詰中日記』（臼杵市教育委員会蔵）



図③ 「毛利家より水野出羽守家へ輿入行列の図」
『国枝外右馬江戸詰中日記』（臼杵市教育委員会蔵）

Ⅲ 将軍への奉公

将軍への奉公

藩主俊懋にとって将軍への奉公は、江戸滞在中最も大切な仕事でした。毎月１日と15日の定例の登城日のほかに正月三が日日、五節句（正月７日の人日・３月３日の上巳・５月５日の端午・７月７日の七夕・９月９日の重陽）、八朔（８月１日の登城日。幕府にとっては開祖徳川家康が江戸入りした重要な記念日）などの行事の日は諸大名が従者を伴って登城しました。そのため、江戸城の表玄関というべき大手門や内桜田門は大変混雑したと伝わっています。

また、幕府の老中らへの挨拶周り（「対客」）も大事な勤めであり、老中ら幕閣たちの屋敷の門前も大勢の来客が詰めかけていました。

その詳しい様子は臼杵藩士の国枝外右馬が日記の中で絵として残しており、江戸城へ登城する際の混雑した様子や将軍の御成り（外出）にお供する大名の様子などが描かれています。この章では、国枝外右馬江戸詰中日記の挿絵を見ながら江戸での幕府の奉公などについて見ていきたいと思います。

外右馬は日記をつけるにあたって、江戸での生活での出来事を絵にしています。この挿絵は天保期の江戸の様子を具体的に知ることができる貴重な資料となっています。

図⑧「江戸城登城で大名家行列混雑・騒動の図」
『国枝外右馬江戸詰中日記』（臼杵市教育委員会蔵）

Ⅳ 御座船と守護神・船霊

御座船と守護神・船霊

日出藩の参勤交代では瀬戸内海を航行するルートが用いられるため、藩主が乗る御座船を中心とした藩の船団とそれを操る水主（船手）の存在が重要でした。日出藩の御座船は船団の元船と称された神力丸、艀船（波止場から本船との間を往復して乗員などを運ぶ船）の役割を果たした日吉丸を中心として、霊府丸などの供船を従えて瀬戸内の海を航海しました。

家老は非常時に備えて神力丸とは別に天神丸に乗船しました。『俊懋日記』寛政３（1791）年３月22日条には艀船の日吉丸が遅れたために室津へ上陸できないでいる俊懋のために、家老の宮崎直記が天神丸で室津から西へ20㎞離れた大多府島まで行って小早（手漕ぎの小型船）を借りて引き返し、その小早で無事に俊懋を室津に降ろしたことが記されています。

また、参勤の際の出航の儀式も各藩で異なっており、府内藩では法螺貝や太鼓の合図で出航していたことが『府内藩記録』には記されています。一方、帰国した船団が日出港に入る際には船を飾り付けて入港したと『俊懋日記』にあります。

座船には守護神として船霊（船玉）が祀られており、年始の神力丸での乗初の際には船霊の御神酒を藩主が頂戴していたと『俊懋日記』には記されています。参勤の際に日出若宮八幡宮で行われる神事とともに航海安全を祈願する大切な儀式でありました。

『御座船飾金具』（当館蔵）

Ⅴ 参勤の延期と幕府の対応

参勤の延期と幕府の対応

杵築藩主と府内藩主は必ずどちらかが在所（藩の領地）にいることが義務付けられ、参勤交代の際には一方の藩主がその居城に帰るのを確認してから出発することになっていました。杵築藩の歴史を記した『追遠拾遺』によれば、杵築藩第３代藩主の松平重休は宝永６（1709）年11月に参勤の時節になったので幕府にお伺いを立てたところ、老中より松平近禎（府内藩第３代藩主）在着以後の参勤を命じられたことが記されています。このような杵築藩と府内藩との間の参勤交代の有様は、後世「御在所交代」と呼ばれました。

寛政７（1795）年、俊懋は病による体調不良が原因で

日出藩の参勤交代行路（参勤）［寛政年間］

日出藩の参勤交代行路（交代）［寛政年間］

江戸への参勤を延期していました。その時、また不思議なことに府内藩主松平近儔（ちかとも）も体調不良により参勤を延期していました。

松平近儔は 9 月には体調も回復して参勤することになりましたが、この年に限ってはわざわざ府内城から陸路を通って日出領を通過し、深江港から出航する道筋をとっています。例年ならば府内藩の出航地は住吉川沿いに設けられた新川港や春日浦御茶屋などの領内の港に設定されるのですが。このことについて『俊懋日記』寛生7年10月5日条には、松平長門守（近儔）が深江港に来たのは俊懋が体調不良なのを確認するためでもあると記されているのです。

VI 現代に伝わる俊懋の遺産

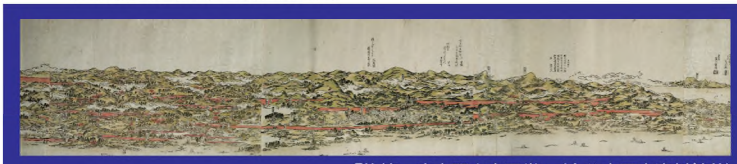
現代に伝わる俊懋の遺産

現存する『俊懋日記』は享和元（1801）年の物を最後としています。享和元年以降の俊懋の生涯を記した資料があまり残されていないため、詳細な足跡を追うことが困難となっています。

俊懋の後半生は泰平の時代から激動の時代へと転換する過渡期にあたりました。豊後国では、文化 7（1810）年 11 月に発生した岡藩での打ちこわしがきっかけとなり、豊後一円と豊前国宇佐・下毛郡にて文化一揆が起こり、社会不安が高まるばかりでした。日出藩も四日市代官所の要請によって、文化 9（1812）年に一揆鎮圧のために宇佐郡へ出兵しています。

そのような情勢の中、文化 7（1810）年に木下俊懋は家督を俊良に譲り、藩主の座から引退しました。本来、俊懋の嫡子は正室於鉄との子である英丸でした。しかし、英丸が享和 3（1803）年に 6 歳で早世したため、側室の梅との間に生まれた籌丸（かず）（俊良の幼名）が嫡子となっていました。正室於鉄も俊懋に先立つこと文化 4（1807）年に亡くなっています。

文政 5（1822）年 7 月 3 日、木下俊懋は 51 歳にてこの世を去りました。俊懋は天明 8（1788）年の初入部以来、紙漉きなどの新しい産業の育成や帆足萬里の藩学教授への登用による学問と文化の振興などに努め、日出領内の発展に尽力しました。俊懋がその生涯をかけて築いてきたものは日出町の歴史と文化を示す重要な文化財として現代まで大切に遺されています。



『杵築・府内間山水図巻』（大分市歴史資料館蔵）

『杵築・府内間山水図巻』日出城下・日出港部分（拡大）

日出町歴史資料館・日出町帆足萬里記念館

【開館時間】9：00 ～ 17：00　※入館は 16：30 まで
【休 館 日】月曜日（祝日の場合はその翌日）
　　年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）
【住　　所】大分県速見郡日出町 2602 番地 1
【住　　所】TEL0977－72－6100　FAX0977－72－6103
■所管課　日出町教育委員会社会教育課（文化財係）
〒879-1506 大分県速見郡日出町 3891 番地 2
TEL0977－73－3222　FAX0977－72－8680